路面電車と都市の未来を考える会
RACDA
かわら版
人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA
2009／11

公共の交通を支える バスマップ作製の意義

第７回バスマップサミットは沖縄で開催

１０月１０日から沖縄で第７回バスマップサミットが沖縄で開催され、全国からＲＡＣＤＡの仲間の交通ＮＧＯが集合した。第１回の岡山サミットの時は、岡山、広島、福井、松江などで市民によるバスマップが発行されているにすぎなかったが、現在では新潟、和歌山など１５都市以上で市民によるバスマップが発行またはインターネット上で公開されるようになっただけでなく、大阪市の様に我々のノウハウで改良されたバスマップが発行されるようにもなった。

市民によるバスマップは、事業者によるバスマップと違って全バス会社が掲載され、また一部の行政主導のバスマップが自分の市内しか掲載されていないのに比べ、広域のバスマップになっている。利用者本位を貫けば、当然のことなのだが、日本という国は変な国で、公共の交通の中心であるバスマップが手軽に安価に提供されていないのだ。行政がこうしたバスマップを発行しない理由の一つは、手軽に路線変更などができるバスを対象としているので、印刷した在庫が一部でも間違ってくると、苦情の対象となるからである。折角印刷したバスマップが、大量に廃棄された例さえある。

ＲＡＣＤＡのバスマップ岡山版は２００６年版で、既に一部のバス路線が廃止されているのだが、現在でも発売を続けている。現在は各バス会社のインターネットのホームページが充実してきており、詳細な発着時刻情報は入手できるので、ＲＡＣＤＡのバスマップは主に乗継利便性などを知ることができる便利なツールとなっている

さて我々サミットのメンバーは１１月にバスマップの作成ノウハウを一冊の本にすることになった。本の名前は「バスマップの底力」となる予定だ。全国各地の市民団体や行政、バス事業者に一定の提言を行うことにもなるのだが、これを機に全国どこでも手軽にバスマップが入手できるようになればうれしい。

時あたかも新政権では「交通基本法」の制定の準備に入った。すべての人が自由に安価に移動する権利を保証するこの法律が制定されれば、各地にバスマップがあることは当然のことになるだろう。我々市民団体連合はこうした法律の制定にも一定の貢献をしてきたと思うが、これからは一段と使命は重くなる。より正確で使いやすいバスマップをいかにして提供していくか、資金や配布方法など課題も多いが、頑張っていきたいと思う。

路面電車と都市の未来を考える会 RACDA 事務局
〒700-0823 岡山市丸の内 1-1-15(禁酒会館 3F) TEL/FAX 086-232-5502 E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp
http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ RACDA 事務局 wiki 検索

「バスマップサミット inおきなわ」ツアー報告その１ 那覇市の交通体験ツアー

去る10月10日から12日までの3連休を利用して、沖縄県那覇市において「第7回全国バスマップサミット inおきなわ」が開催された。初日に「那覇市の交通体験ツアー」、3日目に「730ツアー」が催され、両方に参加させていただいた。RACDAかわら版では3回にわたってツアーの模様をご報告する。今回は「那覇市の交通体験ツアー」についてご報告しよう。

●沖縄本島の路線バスの基礎知識

まず、沖縄本島の路線バスについて簡単に説明しよう。沖縄本島は南北に長く、南部の那覇市に大多数の路線が集中している一方、中・長距離路線も多数あるのが特徴である。

主要なターミナルとして那覇バスターミナルがあり、沖縄県庁周辺や沖縄都市モノレール「ゆいレール」おもろまち駅前周辺も多数の路線が発着している。

バス会社は6社あるが、そのうち那覇市中心部まで乗り入れるのは琉球バス交通・那覇バス・沖縄バス・東陽バスのいわゆる「主要4社」で、これらの主要4社の路線には共通した系統番号が付けられている。

乗降方式は「前乗り・前降り」が大半で、那覇バスの市内線(一部除く)は「前乗り・後降り・先払い均一運賃」であったり、沖縄バスの一部路線では「後乗り・前降り」であったりとやや複雑である。

●いよいよ出発

交通体験ツアーは3組が時間差で出発するとのことで、筆者は一番早い12時30分集合のAコースに参加した。

出発地は「那覇バスターミナル」。那覇市の路線バスの一大拠点であり、各社の事務所も存在している。

のりばには懐かしい「パタパタ」式の発車案内表示機があり、どこかノスタルジックな雰囲気。でもこれが現役で稼動しているのだから凄い。我々は12時50分発の東陽バス<38>志喜屋行に乗り、「開南」で下車。

「開南」エリアは、那覇市民の生活を支える古くからのマチグヮー(市場)という説明があり、多くの買い物客らでにぎわっていた。

●どんどん進む

「開南」からは那覇バス<2>新川(あらかわ)営業所行に乗り、「識名園前」で下車。この停留所は、那覇市都市景観賞を受賞したといい、緑も豊かで落ち着く停留所である。続いて那覇バス<5>新川営業所行に乗り、終点の「新川営業所」で下車。

新川営業所は、那覇バスの市内線の運行拠点となっている営業所で、ここからは7つの系統が発着しており、待合室も完備されている。

新川営業所からは那覇バス<1>三重城行で「首里駅前」まで乗車。首里駅はゆいレールの終点であるもののバスターミナルといったものは無く、道路端の停留所で乗降を行う。

●ハプニング!

ここでハプニング発生!首里駅前で乗り継ぐ予定だった沖縄バス<8>石嶺団地東行が、タッチの差で発車して行ってしまったのだ。やむを得ず、乗り損ねたバスが折り返し<8>おもろまち駅行となって戻ってくるまで現地で待機することに。そして戻ってきたバスで「おもろまち駅前広場」まで乗車。この路線は、おもろまち駅から首里城・首里駅前を経由して石嶺団地の中まで入る路線で、首里城観光にも便利であるほか、コミュニティバスとしても成功している路線である。沖縄バスではこの路線を「首里・城下町線」として運行している。

●いよいよラストスパート

おもろまち駅前広場からは那覇バス<10>牧志新都心線・那覇バスターミナル行に乗車。

通常は国際通りを経由するのだが、この日は「那覇まつり」で国際通りが歩行者天国となっており、通常経由しない開南を経由して那覇バスターミナルへ向かう。

我々は「開南」で下車して交通体験ツアーを終えた。

●感想

筆者は沖縄の路線バスについてほとんど予備知識を持たずに参加した。そして岡山とは違う乗降方式、系統番号完備の主要4社など、すべてが初めてなだけに戸惑ったりもしたが、慣れれば便利に使えそうだと思った。

次に沖縄に向かう機会があれば、しっかり路線バスを堪能してみたい。

<予告>次号では3日目の「730ツアー」の参加報告・前編を掲載予定。お楽しみに。(石井孝幸)